

教員養成大学・学部、教職大学院の取組状況について ～ グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集 ～

令和6年3月

はじめに

- この事例集は、「令和4年中央教育審議会答申」を踏まえ、教員養成大学・学部等から特色ある好事例や先進的な取組等について聞き取りを行い、以下の項目ごとに取りまとめたものです。

■項目

- (1) 教職課程の見直し
- (2) 学部と教職大学院の連携・接続の強化・実質化
- (3) 教育委員会と大学との連携強化の促進
- (4) 理論と実践の往還を重視した人材育成の好循環
- (5) 教員就職率向上
- (6) 組織体制の見直し

- 教員養成大学・学部、教職大学院におかれましては、今後の改革に向けた取組の参考として御活用いただければ幸いです。

(3) 教育委員会と大学との連携強化の促進

14

【宮崎大学】みやざきの教育課題に関する学部・研究科と教育委員会との連携・協働推進

(宮崎の特徴的な教育を実践的に学ぶ双方向型プログラム)

五ヶ瀬町教育委員会や木城町教育委員会等との連携協定を基盤とする小規模校や複式学級、小中一貫校での実践的な学修の充実

- ① 令和2年度に五ヶ瀬町教育委員会、令和4年に木城町教育委員会と連携協定を締結し、各々から毎年50万円・40万円の受託事業費を受入
- ② 五ヶ瀬町教育委員会主催のオープンスクールや木城町立学校での授業参観や座談会に学部生・大学院生の参加 (令和4年度は延べ38名の学部生・大学院生が参加)
- ③ 教職大学院科目「小規模校のカリキュラムマネジメントと授業づくり」(選択科目)での複式学級を含む学級の担任体験を通じた実践的学修 (令和4年度は7名の大学院生が履修)
- ④ 大学教員による五ヶ瀬町立学校や木城町立学校での教員研修等への協力 (令和4年度は五ヶ瀬町で計6回、木城町で計3回)
- ⑤ 五ヶ瀬町立小学校6年生の修学旅行の受け入れ (令和3年度～)

へき地教育・小規模校体験 参加者募集
宮崎県五ヶ瀬町立学校オープンスクール 2022

4年生に授業する教職大学院生

大学の授業を見学する6年生

(5) 教員就職率向上

32

【宮崎大学】宮崎県教育委員会との連携・協働による教員の「確保」と「資質・能力向上」の取組

「継続的な教員の確保」と「現代の多様な教育課題に対応できる優秀な人材の育成」を課題として、高校在学時から就職後の教員研修まで様々な取組を行っている。

- ・高校生を対象とした「教師みらいセミナー」で、教員養成での学びや教職の魅力を伝えることで、教職へ意欲のある学生の獲得につながっている。
- ・宮崎県教育委員会と連携して「宮崎県教員希望枠」入試を実施している。平成28年度入試から教職実践基礎コース5名、令和4年度入試から小中一貫教育コース15名を募集し、令和6年度入試からは学部入学定員20名増に伴い、「宮崎県教員希望枠」の募集人員を17名拡充した。なお、今後、宮崎県教員採用試験で特別選考が予定されている。
- ・小中一貫教育コース「宮崎県教員希望枠」入学生を対象に「ひなた教師セミナー」を実施し、グループワークや小学校訪問などを通して教員に求められる資質や能力を育成している。
- ・宮崎県教育委員会の職員1名を客員教授として配置し、高校の事情に即した広報の充実、入試、大学入学後の教員育成など、幅広い形での連携を進めている。
- ・平成29年度以降、本学教育学部入学者数のうち県内出身者は約52%を占めており、全国平均を上回る教員就職率を維持するなど、様々な取組の効果が表れている。

